

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	通所支援事業所 フレンドロコペリ		
○保護者評価実施期間	令和7年1月4日		～ 令和7年1月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49名	(回答者数) 29名
○従業者評価実施期間	令和7年1月4日		～ 令和7年1月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々なアセスメントツールを活用して、お子さんの状態をアセスメントしていること。 ※ツール例 WISC-V・旭出式社会適応スキル検査・JSI-R等	一度だけでなく、定期的に様々な検査を実施し、比較を行っている。	職員一人一人が検査結果をもとにアセスメントできるように、研修等で検査について取り扱っていく。
2	定期的に研修を実施している。	障害特性についてはもちろん、利用している検査への知識を深めるものや、子供への声掛け・関わりの方法など、支援に関わる様々な情報を幅広く取り入れられるように、研修計画を立てて実施している。	専門の職員がほかの職員へ研修を実施するなど、職員同士での情報交換が出来る研修を充実させていきたい。
3	集団での活動だけでなく、お子さんの様子やニーズに合わせて、個別・小集団での活動も取り入れている。	自由時間などでお子さんと話をしながら、その様子や状態に合わせて個別の支援やかかわりを持つようにしている。	保護者の方や、学校からも情報をいただきながら、職員間で連携しつつ個別でのかかわりが充実するようにしていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他事業所の方々と職員同士での交流はあるものの、子供同士での交流の機会をあまり設けることができていないこと。	日程や内容などの連絡調整の難しさがある。感染対策等を鑑みると、実施に踏み切れないことがある。	他事業所との連絡が取りやすいように、かかわりを増やしていく
2	保護者会など、お子さんの様子を見学できる機会や保護者の方同士での交流ができる場をあまり設けることができていないこと。	会の実施を主導する職員が決まっていない。日程等の調節が難しい。	来年度よりペアレントトレーニング会を主催していく。日程等は、保護者の方の意見をいただきながら調整する。
3	地域の方へのかかわりがあまりできていない。	事業所の近所の方や避難所の方々に、コンタクトをとる機会が少ない。	地域住民の方や、消防団、避難所になっている公共施設の方々にご挨拶と、支援へのご協力をお願いする取り組みを実施する。